

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	272100801		
法人名	社会福祉法人つくし会		
事業所名	グループホーム百代ハウス		
所在地 (電話番号)	〒038-2701 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町北浮田町字今須87-1 (電話) 0173-72-7111		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 9月 18日	評価確定日	平成 20年 10月 31日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	10人, 非常勤 4人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鰺ヶ沢町立中央病院、布施病院、湊谷歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は郊外に位置しているものの、系列法人の福祉施設が複数隣接された環境にあり、入居や通所の利用者との交流場が確保されている。又、日常的に外出の機会を持ち、地区の方々とも馴染みの関係が構築され、地域行事参加や広報誌の毎戸配布を通じ、事業所への理解も得られている。同業者間や事業所内の学習会も定期的開催され、援助体制の在り方、改正制度の理解等について話し合わせ、サービスの改善や職員個々の質の向上に前向きに取り組んでいる。又、家族との相互連絡も定期的に行われ、意見を吸い上げ介護計画作成に反映、日々の暮らしの中で実践されてる。入居者も生活の各場面に於いて残存機能を活かしながら作業参加したり、主体的に生活されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	内外の定期的な学習会開催で、地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度について学び、必要場面に於いては利用に繋げる支援体制が出来ている。今後も利用の有無に拘らず、継続的に学習の機会を確保して行く方向である。..
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で検討し自己評価を実施、管理者は、日頃から意見を出し易い環境を作り、自ら気付きの視点を持ちサービスの向上に寄与出来る体制を目指している。入居者の希望に沿った入浴援助は、ハ・ド・ソフト両面で課題があり、今後改善の方向である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	構成メンバーに委嘱状交付し定期的開催されており、自己評価や外部評価の結果報告を行い、意見を求め改善に取り組んでいる。又、事業所のアピールや認知症の理解を得る為の学習の場としても活用、地域に向け事業所の機能を還元しながら、地域の認知症介護力の向上に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	面会や変化のある都度連絡を行い、且つ意見投書箱の設置で意見の吸い上げを行っている。苦情受付体制についても、入居時に文書を持って説明、発生時には本部会議で検討し改善している。又、三ヶ月毎の広報誌・小遣い出納状況の写し送付時に状況報告を行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日頃から外出の場面を多く持ち、地域住民と慣れ親しんだ状況にある。地域の行事や保育園・小学校との交流も活発で、入居者の心の潤いに効果も大きく、住民の事業所としての理解も得られている。特に、町内会長の協力体制が強く、開放された事業所として地域と上手く共存している。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念は掲示されているが、グループホーム独自の理念が希薄である。管理者を中心に職員間でも、個人の喜びを感じる生活作りを支援するという意識は確立されており、それらを網羅した理念が確立されていない。		地域の中の生活者として、日々喜びが見出せる暮らしを支援するという意思統一がされており、その体制を対外的に公表し内部での浸透をより強固とする為にも、理念として明文化する事が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	礼を正し・場を清め・時を守るという倫理の下、入居者が喜びを感じて生活出来るように支援するという意識統一がなされ、日々の介護の中で実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	気軽に散歩に出掛けたり、地域行事に参加する等日頃から積極的に地域参加し交流を持っており、地域住民とも慣れ親しんだ状況にある。特に町内会長のバックアップが大きく、事業所の紹介や介護教室開催に便宜を図って頂いている。管理者も、認知症の理解を高める目的で、地域に出向き学習会を開催している。又、三か月に一回、地区の毎戸に広報誌を直接配布し、事業所の状況を公表している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己・外部ともに評価は自由に閲覧出来るよう掲示している。結果については全職員で改善策を検討したり、運営推進会議で報告を行い参加委員から意見を頂き改善に取り組んでいる。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催されており、内・外の評価に関する報告・検討を実施、具体的な改善策も出されている。又、その進捗状況についても定期的開催時に報告が行われ、サービスの向上に反映されている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政のバックアップで同業所間の定期的な学習・交流会が開催されている。又、事業所の状況や課題についても報告し、意見・協力を頂く体制が作られている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	インターネットや研修参加の資料を基に、毎月内部で勉強会が行われており、理解を深めている。援助の必要性が考えられる事例については、日頃から状況確認し、活用に繋げられる支援体制である。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部での勉強会で職員同士が虐待に関する意識確認を行い、管理者も生活環境の視認を励行し虐待の場面は無い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に重要事項説明書を持って十分な説明を行い、理解・納得を得た上で契約書を取り交わしている。同意についても署名・捺印頂き、事業所と家族双方で一部ずつ保管している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会の折は確実に状況報告を行い、変化や連絡の必要性が生じた場合も随時電話連絡している。定期的に広報誌の発送を行い、通帳の写しを同封、小遣いの出納状況も明確にしている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時に苦情等の受付体制について説明を行うと共に、玄関窓口に意見投書箱を設置し対応している。出された内容については本部会議で検討、解決のプロセスについても内部に掲示し公表している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>経営の全ての事業所を経験してもらうという法人の運営方針として、定期及び随時の異動は避けがたいものの、事前の説明を行ったり、同敷地内の事業所という利点を活かし、入居者・職員共に相互に行き来したりしながら、スムーズに受け入れられるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
入					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修参加は積極的に勧めており、資格取得時は報奨金を出し、功績を評価すると共に、職員の向上心の育成を図っている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所間で、定期的に学習・交流会を開催している。テーマを決めて学習したり、改正された制度の知識を得たり情報交換等を積極的に行われている。		
マ					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が検討された段階で本人や家族の方に来訪して頂き、直接事業所の環境や雰囲気を確認する場を提供、職員と顔なじみになれるよう配慮しており、入居時の不安を解消すべく努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域的に農作業の経験者が大半であり、入居者の教えを請いながら野菜作りを行ったり、調理の味付けを頼んだりしながら、同じ生活者としての視点で対応している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時の生活の聞き取りや、家族からの情報、又、日々の生活を通して個人の望む生活の在り方を模索し、可能な限り同意を得ながら生活を支援している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意見を吸い上げ、担当者を中心に全職員で検討会議を行い、個々の残存機能を活かしながら、喜びを持って生活できるよう介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的見直しと状況変化に際しては随時に関係者の意見を聞き取り、介護計画を作成しているが、アセスメントや評価及び同意の部分で書類が整備されていない。</p>		<p>意見の吸い上げや、全職員での検討で介護計画は作成されているものの、記録として残されていない為、計画的な支援体制が不明確である。情報開示の義務や介護の証拠立てとしても、記録物は順序立て整備される事が望まれる。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院や散髪等の外出支援は個別に対応、入居前のライフスタイルが継続出来るよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の通院を支援しており、医師と事業所間の連絡体制も緊急時を含め整備されている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取りに対する、事業所独自の方針は確立に至っていないが、過去の事例としては存在しており、管理者を始め職員間での意識としては、都度関係機関と連絡を取り合い、協力体制を確保しながら対応して行く方向である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉掛けは穏やかであり、行動制限も無く個人を尊重した対応を取っている。記録物は事務室に保管、個人情報の管理についても、同意書を取り交わしている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の挨拶の中で希望を問いかけ、その日の過ごし方を決定している。個人の生活習慣や気分を大切に、無理強いせず一人ひとりに寄り添う介護を実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は入居者と共に買出しに出掛け、メニュー-外に希望された場合は好物を購入する事もある。下拵えや味付け等入居者の指導を受けながら職員と共に調理したり、盛り付けしている。配膳や食後の片づけ等自らの仕事として率先して行う入居者もいる。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全入居者の希望を確認したところ、現状維持で良しとの結論に至り、週3回の入浴が行われている。今後、夜間や毎日利用等の希望が出された場合は、前向きに対応する事で職員間で確認出来ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活習慣や残存機能を活かし、掃除・草取り・調理に関する作業等生活の中で出来る部分は役割を持って行ってもらい、有用感のある生活を支援している。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の購入や月2回のショッピング等定期的な外出の他に、天候や季節の催し物等がある場合は随時に希望を募り、外出の場面を持っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
会					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修や、独自の勉強会を通じ身体拘束がもたらす心身両面への弊害を認識し、拘束は行われていない。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は無く、出入りについては玄関のセンサーで確認している。又、地域住民と顔馴染みになっている事もあり、単身外出され事業所に連絡を頂き、事無きを得た経緯もある。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隔月で消火訓練が行われており、避難通路も確保されている。地区消防との連携はあり、今後は分団の協力体制を確保する方向である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は系列施設の栄養士が作成しており、毎日の摂取量や水分量もチェックし記録に残されている。食思不振や体調不良時等は適宜嗜好物や代替え品を提供し栄養量の確保に努めている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	図柄入りの手書きのマニュアルが細かく整備されており、視覚上からも解り易く活用性が高い。世情の流行にも敏感に対処し、都度確認の勉強会を行う等、対策を講じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者の特技である紙細工や季節の草花、又行事の写真等が掲示され、和やかな雰囲気の中に活気を醸し出す演出が施されている。一日の中で電気やテレビを消して心静かに過ごしてもらうサイレントタイムを取り入れている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々の居室空間は、本人が望むように配置されており、使い慣れた家具の持ち込みも奨励している。家族の写真や記念の書等飾られ、事業所にありがちな無機質感は感じられない。</p>		

 は、重点項目。